

第15回 鈴鹿病態薬学研究会

日時：平成31年2月21日（木）16時30分より

会場：鈴鹿医療科学大学（白子キャンパス）6号館6103室

◆ 演題：血栓症と遺伝子バリエーション

◆ 講師：宮田 敏行 先生

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
名誉所員、脳血管内科 シニア研究員

◆ 講演概要

2001年にヒトゲノムの概要版塩基配列、そして2004年にヒトゲノムの完全版塩基配列が発表されてから15年ほどが経った。2013年にはprecision medicineが提唱され、がん領域ではゲノム診療が広がっている。それでは血栓症領域では、ゲノム情報はどこまで理解が進み、どのように臨床に使われるのだろうか？

心筋梗塞や脳梗塞といった血栓症はゲノム網羅的関連解析が行われ、リスクとなる遺伝子バリエーションが同定されたものの、それらのオッズ比は1に近い数値を示した。遺伝子バリエーションの情報を遺伝ゲノム学に用いる研究は、当初、抗血栓薬ワルファリンやクロピドグレルの処方に有望視されたが、現状では臨床に使われていない。一方、静脈血栓塞栓症では、オッズ比4~9を示す日本人特有の遺伝子バリエーション、プロテインS徳島変異（PS-Tokushima (p.Lys196Glu)）が同定された。また、血栓性微小性血管症である血栓性血小板減少性紫斑病は、血中プロテアーゼADAMTS13の遺伝子バリエーションで説明された。同様に、血栓性微小性血管症を示す非典型尿毒症症候群は、補体系の複数の遺伝子にバリエーションが同定されているが、その浸透度は低い。本講演では、これらの研究を紹介し、今後どのような研究が期待されるかを考えてみたい。

主催：鈴鹿病態薬学研究会（代表 鈴木 宏治）

共催：株式会社 メディカルー光

事務局(問い合わせ先)：鈴鹿医療科学大学薬学部 医薬品開発学研究室 中山 浩伸
TEL：059-340-0606, e-mail：nakayamh@suzuka-u.ac.jp

第15回 鈴鹿病態薬学研究会

血栓症と遺伝子バリエーション

講師： 宮田 敏行 先生

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
名誉所員、脳血管内科 シニア研究員

日時：平成31年2月21日(木) 16時30分より

会場：鈴鹿医療科学大学（白子キャンパス）6号館 6103室

本講演会では、血栓症に関わる遺伝子多型に関する最前線の研究成果についてわかりやすく解説していただきます。

奮ってご参加ください。

主催： 鈴鹿病態薬学研究会(代表:鈴木 宏治)

共催： 株式会社 メディカルー光

事務局(問い合わせ先): 鈴鹿医療科学大学薬学部 医薬品開発学研究室 中山 浩伸

TEL 059-340-0606 e-mail nakayamh@suzuka-u.ac.jp